

「岡大教職ナビ」では教職課程を履修しているすべての学生に役立つ情報を随時配信しています。ここでは配信した最新記事の一部を掲載しています。さらに詳しい情報や最新の情報はセンターホームページをご覧ください。

教員・講師等募集情報

- 名城大学附属高等学校教員（理科）
- 社会福祉法人みつき福祉会幼稚園教諭
- 福岡大学附属大濠中学校・高等学校教員・常勤講師
- 広島女学院中学高等学校教員（数学）
- 学校法人智辯学園教員
- 愛光中学校・高等学校教員（英語）
- 国立大学法人京都教育大学附属学校教員
- 社会福祉法人夢らんど二田 幼稚園教諭（第2回、第3回募集あり）
- 学校法人関西大倉学園教員（理科）
- 聖学院中学校・高等学校教員（物理）
- 社会福祉法人聖徳福祉会幼稚園教諭
- 香川県藤井中学校・高等学校教員
- 公益財団法人海外子女教育振興財団 海外日本人学校教員
- 三重中学校・高等学校教員
- 学校法人津田学園教員
- 学校法人朋和学園幼稚園教諭
- 聖学院中学校・高等学校教員（音楽）
- 甲南高等学校・中学校教諭
- 西南学院中学校・高等学校専任教諭及び常勤講師
- 新田高等学校 常勤講師募集

スクールボランティア募集情報

- イングリッシュキャンプ学生ボランティア（岡山県県民生活部国際課）
- 学校支援ボランティア依頼内容一覧（2013.5.7）（岡山市教育委員会生涯学習課）
- スクール応援団募集（瀬戸内市立牛窓中学校）
- 学習支援ボランティア（瀬戸内市教育委員会）
- 【急募】学校支援ボランティア（岡山市教育委員会生涯学習課）
- 保健室ボランティア（岡山市立西小学校）

<教員採用試験受験記>平成25年度 岡山県 小学校

合格

教育学部 小学校教育コース 国語専攻 多田 葵 さん

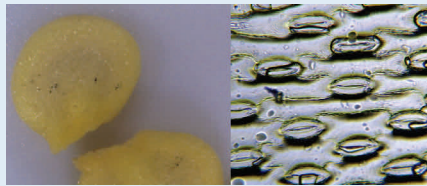
とにかく、何を聞かれても、先生になったらこんなことがしたい！こんな先生になりたい！こんな子どもを育てたい！絶対に先生になりたい！という強い意志を持って答えました。ただ淡々と話すのではなく、笑顔で表情豊かに、ジェスチャーを交えながら熱い気持ちをぶつけると、最初は無表情だった面接官の方も、笑顔を見せてくれます。そして、教採は本当に団体戦です。私は教採の対策を通して本当にたくさんの大切な仲間を得ることができました。新しい友だちもたくさんできました。みんなが居たから、長い長い受験勉強も、お盆まで頑張った模擬授業・面接対策も、諦めずに乗り切ることができました。教採を通して、合格だけではなく、先生として必要な知識と、頑張り抜けたという自分への自信と、大切な仲間を手に入れることができました。皆さんも、頑張ってください！

教員リレー・エッセイ「理科は嫌いではありません。」

理数系教員養成事業部門 山崎 光洋 教授

「自然や科学が好きですか？」こう聞かれて、すぐに「好きです」と答えられる大人がどれくらいいるでしょうか。同じように、理科を「好きです」と言ってくださる小学校の先生はどれくらいおられるでしょう。どちらも、そう多くはないでしょう。大人の自然や科学への関心の低さ、小学校教員の理科の指導に対する苦手意識、こうしたものが背景にあって理数系教員（CST）養成プログラムが始まりました。では、小学校の先生方は自然や科学に対して関心がなく、理科の指導をしたくないのでしょうか。CST養成プログラムの担当者である私は、30年以上も小学校理科にかかわらせていただいておりますが、身近な草花の名前は覚えられませんが、未だに未解決？の現象もたくさんあります。それでも、自然や科学、理科は嫌いではありません。身の回りの自然や科学には面白そうなのがいっぱいありますし、理科の授業で子どもたちの様子を見てみると楽しくなってきます。理科に対して抵抗感をもつ先生がおられるとすれば、面白そうだと思ったり、楽しいと感じたりする余裕がなくなってきたからかもしれません。

先日、養成プログラムの講座で現職の先生方と、草花と野菜の種子や葉などを観察しました。「この花の種子ってこんな色や形をしているんだね。」「とても種子とは思えないね。」「顕微鏡で見るとこんなにきれいに見えるんだね。」「葉に気孔がこんなにたくさんあるとは思わなかった。」「やっぱり自分でみると楽しいね。」観察した種子や葉はありふれたものばかりでしたが、あっという間に時間が経ってしまいました。与えられる刺激に毎日追われ続けている私たちは、素朴なものの面白さやそれらに触れる楽しさを知らず知らずのうちに失ってしまっていたのでしょうか。面白いと思ったり楽しいと感じたりしようとするれば、きっと身の回りからそんなものをたくさん見つけることができそうです。「好きです」と言えなくても、そんな先生の理科の授業なら、受けてみたくなるに違いありません。



平成25年度第2・3・4回教師力養成講座のご案内

第2回「はじめ」を考える

- 日時 平成25年6月26日（水）9:30～12:00
- 場所 一般教養棟 D棟 D-32
- 講師 岡山市立御南中学校 校長 小野恭弘 先生

第3回「不登校」を考える

- 日時 平成25年7月10日（水）13:00～15:30
- 場所 教育学部本館 401教室
- 講師 岡山市立御南中学校 校長 小野恭弘 先生

第4回「保護者のクレーム」を考える

- 日時 平成25年8月6日（火）13:00～15:30
- 場所 教育学部講義棟 5102教室
- 講師 未定

《教職相談室からのお知らせ》

夏季一斉休業(以下の3日間)は 教職相談室を **開室** します！

8月14日（水）／8月15日（木）／8月16日（金）
（開室時間 10:00～17:00）

岡山県・市2次試験の直前の3日間です。また、それと同時に、教職相談室の近くの2教室も使用できるようにします。試験勉強や友達との情報交換に大いに利用してください。待っています。

岡山大学 教師教育開発センター ニュースレター

CTED NewsLetter

Center for Teacher Education and Development, Okayama University

第4号

(2013年6月1日)

全国初! 全学教職課程の初年次教育プログラム「母校訪問」

「母校訪問」とは、全学教職課程を履修する1年生が最初に取り組むプログラムです。つい数ヶ月前まで高校生として通っていた母校に、「教職をめざしている学生」として1日訪問します。専門教科の授業観察と恩師へのインタビューを行うことが主な内容ですが、部活動の指導補助をしたり、後輩の高校生に大学生活の様子を紹介したりする機会を頂いた学生もいます。

母校訪問は、岡山県内の公立・私立高校はもちろんのこと、学生の出身高校教職員の皆様のご厚意とご理解・ご協力によって実現しています。平成22年度のプログラム発足当初は、その趣旨や内容について様々なご意見を頂きましたが、現在では「岡大の全学教職課程と言えば1年次の母校訪問」と呼ばれるほど学内外に認知されており、本学教職課程の特色あるプログラムに

育てて頂いたと思っております。

いわゆる開放制の教職課程の場合、「教員になるつもりはあまり無いけれど、在学中に取得できる資格だから」とか、「民間への就活だけでは不安なので、将来の保険のために取っておきたい」といった気持ちで履修しようとする学生が少なからずいると言われます。もちろん、そのような「きっかけ」は多くの学生に開かれるべきです。そこから結果的に優れた教員を輩出できれば良いわけですが、その一方で、教職課程の安易な履修が放置されてきたこともまた事実と言えるでしょう。

このような状況に対して、出発点の動機はともかく、せっかく教職に興味を抱き、将来の選択肢のひとつに考えはじめた学生を、よりよく育てることはできないだろうか？と考え、企画したのが本学の「母校訪問」です。このことは、教員養成教育の質保証のありかたが問われるようになった全国の動向と軌を一にするものでした。

母校訪問とは、いわば大学における「教職版・職場体験学習」です。180分に及び

大学での事前指導を経た後、学生は詳細な「母校訪問計画書」を作成します。これを大学の指導教員に提出・検認を受けてセンターに提出したあと、自ら母校に電話連絡を入れ、訪問日を調整・確定します。

訪問を終えたあとは「母校訪問報告書」を作成・提出するとともに、これを教材とする事後指導に臨みます。グループワーク主体の事後指導では、母校訪問での体験をピアレビューによって意味づけます。このような一連の取り組みを行うことで、学部の垣根を越えて集った学生のなかに、教職へと向かうモラル（士気）が高まることとなります。現4年生の場合、母校訪問を経験した学生の実に7割以上が、現在も教職課程の履修に取り組んでいます。

もとより「母校訪問」は、まだまだ改善の余地のあるプログラムです。今後の運用を通して、様々な視点・立場からのご意見を伺い、本学教職課程のありようを社会に可視化するプログラムとして成熟させていきたいと考えています。

【文責：高旗浩志】



今号の主な記事

【特集】全国初！全学教職課程の初年次教育プログラム「母校訪問」

【報告】岡山大学教員養成紹介ムービー（DVD）を制作、高校等へ配布

【報告】教職課程履修相談会開催

【報告】スクールボランティアへ参画

【報告】「体罰」の課題と背景

【報告】現職CST第三期生開始

【報告】バイオマスタウン構想を視察

【報告】岡山市教育委員会との専門部会で双方の課題共有

【連載】《教員リレーエッセイ》 理数系教員養成事業部門 山崎 光洋 教授

【連載】教員採用試験のツボ その四「面接は『熱い思い』が合否を分ける」

【連載】教員採用試験受験記：多田 葵さん（教育学部）

【掲示板】「岡大教職ナビ」最新情報

【掲示板】センターからのお知らせ

岡山大学教員養成紹介ムービー(DVD)を制作、高校等へ配布



教師教育開発センターでは、高校生向けに岡山大学教員養成紹介ムービー（DVD）を学生と教職員の手作りで制作しました。「岡山大学で教師を目指そう！—教師教育開発センターの取り組み—」と題したこのDVDは、教職を志す高校生のための羅針盤として、また、岡山大学で教職課程を履修する学生の道しるべとなるよう、教師になる心構えから、センターの取り組む全学教職課程、教職課程を履修している学生インタビューなど、岡山大学の教員養成について分かりやすく解説しています。教師になる「夢」をもつ高校生や大学生は進路選択・決定の資料として活用し、学校現場の先生方には最新の教員養成についてご理解いただく機会となればと思います。ムービーはセンターホームページでも視聴することができます。おひとりでも多くの方にご覧いただき、岡山大学の教員養成についてご理解いただければ幸いです。【文責：佐藤大介】

教職課程履修相談会開催

去る4月3日、新入生を対象とした「教職課程履修相談会」を開催しました。当日は予想をはるかに超え、合計120名以上の新入生が参加してくれました。「履修単位数の制限と教職課程との関わりは?」、「教職課程で履修した単位は卒業要件に参入できるのか?」、「グローバル人材育成特別コース、あるいは他の副専攻と教職課程の併修は可能か?」等、新入生とは思えない問いが寄せられ、彼らの「本気」と出会うことができました。集まってくれた学生の質の高さと熱意に大いに驚かされ、こちらにとっても勉強となった一日でした。毎年5月に「全学教職オリエンテーション」を開催していますが、授業科目の履修登録よりも前に、新入生を対象とした全学教職課程の説明会の機会を設けたいと、かねてより思っておりました。このたび、教育開発センターのご協力により、スムーズな開催が実現できましたことに対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。次年度以降、さらに内容を工夫・改善して開催致します。【文責：高旗浩志】



スクールボランティアへ意欲



今年も「スクールボランティア説明会」が、4月24日と5月15日の両日開催されました。参加者数は延べ114名でした。説明会では岡山県と岡山市の教育委員会の担当者から、事業の説明がありました。スクールボランティアとは、大学生や院生が、岡山県内の公立の学校園等でのボランティア活動を通じて、教職への適正を確認したり、多様化及び複雑化する学校教育への理解を深めたり、実践的指導力の基礎を身につけたりすることを目的として実施されています。各学校園からのニーズも年々増えてきており、学校園からは若い皆さんの頑張り子どもたちのみならず教職員や保護者、地域の皆さんからも好評を博しているとの報告があり、学生、学校の双方にとって非常に有益な活動です。今後は倉敷市、総社市、赤磐市、瀬戸内市の教育委員会も独自のボランティア募集を開始する予定です。ボランティア活動に関する最新情報は、教師教育開発センターのホームページの「スクールボランティア」サイトに随時掲載されます。詳しいことは、教育学部本館2階のボランティアビューローへお尋ねください。【文責：江木英二】

第1回教師力養成講座「体罰」の課題と背景



25年度第1回目の講座では、「体罰」を取り上げました。学生さんの関心が非常に高く、119名の参加がありました。はじめに学校教育学系教授住野好久先生から、体罰に至る背景と教師の指導観という視点を整理していただきました。続いて倉敷市教育委員会の笠原和彦先生から、体罰の法的な位置づけ、体罰の事例、現場での教師の悩みなどに関連づけて、体罰に内包されている課題や背景を話していただきました。「厳しい指導」や「毅然とした指導」と「体罰」とは異なるものです。体罰は、基本的人権の問題であり、「対教師暴力」「生徒間暴力」「虐待」と同一線上で捉えることができます。体罰による指導には限界があります。子どもはしっかりと教師を見ており、どんな指導であるべきなのかの答え、子どもの姿の中に見つけることができます。最後に、グループワークとして「体罰によらない指導」について協議しました。体罰の背景、教師の指導観、子どもとの信頼関係の構築などについて考えるよい機会となりました。この講座のDVDは、教育相談室で見ることができます。【文責：武藤幹夫】

現職CST第三期生開始



平成25年4月20日（土）に第三期生を対象とした現職CST養成プログラムがスタートしました。第三期生は、小学校の先生が6名、中学校の先生が4名で、岡山県各地から参加していただいています。開会式には、岡山県教育庁義務教育課学力向上対策班の岩崎政則総括副参事と赤崎哲也指導主事も出席してくださいました。現職養成プログラムでは、これから理科教育を推進するための基盤となる知識・技能を明確にする理科教育探究講座や学校現場で実施されている授業の課題やそれを改善するための方法を明確にする授業実践力向上講座など、岡山県の理科教育をリードする教員として活躍していただくための講座を実施していきます。第1回の講座では、日々の理科の授業の中での悩みや課題などを出し合い、魅力ある楽しい理科の授業を行ったり広めたりしていくためには何が必要かを協議し、これからの講座でどのようなことに取り組むべきかを確認しました。これから講座を重ねていくなかで、そうした目標に向かってみんなで取り組んでいきたいという思いを強くしました。【文責：平野和司】

CST土曜講座 バイオマスタウン構想を視察



4月のCST土曜講座（科学構成力探究講座と教科構成力探究講座）では、バイオマスタウン構想で町おこしを推進している真庭市の視察をしました。真庭市が企画運営する視察ツアーでの解説の他に、ESDを研究している教育学部の藤井先生の解説を交えながらの1日かけた視察でした。大規模製材企業を核とし、木材集積基地、ハウス農家、公共施設等を組んだバイオマスサイクルを上手に形成しています。自然科学を利用した町おこしの事例を学ぶことで、理科教員としての視点を広げることが狙った講座でしたが、多くの有用な情報を得ることができました。一方的に資源を消費する発展ではなく、科学・技術を利用して循環型の持続可能な発展を実現するための工夫や課題を垣間みることができました。移動のバスの中では、ESDに関する藤井先生の講義や、視察に関する課題レポートの記述を行ないました。今回の講座には、学生CST生11名、現職教員CST生5名の参加がありました。2014年には「国連ESDの10年」国際会議が岡山市で開催されるので、ESDを語ることの出来る理科教員になってもらえたいと思います。【文責：荒尾真一】

岡山市教育委員会×岡山大学 専門部会で双方の課題共有

岡山市教育委員会と岡山大学との連携協力会議専門部会が、5/27（月）岡山大学教育学部本館内において開催され、今年度の連携事業等について意見交換を行いました。主な協議題として、「習熟度別サポート事業」「中学校区ではぐくむ！学力アップ事業」「ユネスコスクール推進事業」「学校支援ボランティア」「教職員研修」等、岡山市主催の事業がとり上げられ、内容や協力体制について協議しました。これらの事業には、多くの岡山大学の教員が参画し、現場の教育カアップに役立っています。さらに教育実践インターンシップや学校支援ボランティアとして多くの学生も参加しており、今後現場のニーズを把握しながら、双方にとって有意義な活動になるようなルール作り等の検討が話し合われました。また、岡山大学からは、これまで以上に大学の「知」や「人的資源」を地域に生かす新しい事業展開を模索していることが紹介されました。今後益々、大学と教育現場、行政との連携を深めて教員養成と教職員の資質向上等の課題に取り組んでいくことが求められている中、お互いの課題が忌憚なく話し合われ、非常に有意義な専門部会となりました。【文責：曾田佳代子】



教員採用試験のツボ

その四「面接は『熱い思い』が合否を分ける」

面接試験には個人面接・集団面接・集団討論・模擬授業・口頭試問・場面指導などがあり、採用試験全体の2/3を占めています。そして、面接試験の最大の特徴は、自分という人間が「教員として相応しい人物かどうか」ということを直接見て判断されるということです。そのため、服装・髪型・姿勢・挨拶や礼の仕方などの見た目を整えることは勿論、想定質問に対する自分

なりの答えを十分に準備しておく必要があります。そのための有効な方法が「面接ノート」です。想定質問の下に自分なりの答えを蓄積していきましょう。そのとき、実習やボランティアや自分が子どものときのエピソードなどが入るとより具体的に説得力がアップします。面接試験の最大のポイントは、「自分はこんな先生になりたい!」「先生になった

らこんなことをしたい!」、そのためには「絶対に先生になりたい!」という『熱い思い』がどれくらいあるかということです。試験官は受験者の「意気込み」や「迫力」を、声のハリや明るさや表情から観ようとしています。口だけでなく、体全体を使って、明るく元気にお腹から声を出しましょう。ありのままの自分を自信を持って表現できれば合格です!【文責：小川潔】